

「北東アジアと日本」プロジェクト

総合政策学部2年 沓澤 愛

【活動の目的】

本研究は、北東アジアの現状を現地の同世代の大学生との継続的な意見交流を通して改めて「北東アジア・日中関係」について理解することを目的とし、日本に居たままでは見えてこなかった現実を把握する試みです。今回の活動では、従来の北東アジア地域に横たわる諸問題を再度整理しつつ、中国の様々な場において私たち大学生間の認識の擦り合わせを行いました。また、今回の特別研究プロジェクトは北東アジアの若い世代が繋がる「場」を作るための第一歩になりました。

【活動日程】

事前研究：7月22日、8月5日、9月3日、9月4日

(訪問先)

- ・防衛研究所…飯田将史主任研究員、門間理良主任研究員

現地研究：9月9日～9月13日

(訪問先)

- ・中国社会科学院日本研究所
- ・中国社会科学院アジア・太平洋研究所
- ・北京電通廣告有限公司
- ・対外経済貿易大学経済貿易学部
- ・北京外国語大学日本語学部
- ・外交学院外交学・外事管理学部
- ・テレビ朝日北京支局

【活動の成果】

日本を取り巻く北東アジアとの関係という同じテーマについて、理論を構築する研究者や実務を担う外交官、そして私たちと同世代の学生と議論し、多様な意見を聞きました。特に、「20年後、30年後の北東アジア・日中関係をどう描くか」という問いに対して、私たち日本人

学生・日本人研究者と中国人学生・中国人研究者の間で「パワーバランスで対外関係を見るか、中国内政を鑑みて対外関係を見るか」という視点の違いから、現状および将来の北東アジアに対する認識に大きな開きがあることが分かりました。



(北京電通廣告有限公司での集合写真)



(中国社会科学院日本研究所での意見交流)

【今回の課題】

今回の交流をつうじて、インターネットや文献といった二次的な資料を通して北東アジア世界を見るのではなく、自らの体験という一次資料のインパクトと重要性を実感することができました。それだけに、今まで一側面的で地域の特殊性の狭い視野で中国とそれを取り巻く北東アジア世界を捉えていたリサーチ不足が目立ちました。また、議論において共通言語を前もって準備できなかったことで議論が偏った場面がありました。このことから、北東アジアや中国に対する理解を深めながら、「20年後、30年後の北東アジア・日中関係」という将来のビジョンを、より多角的かつ立体的になるようブラッシュアップさせたいと思います。

さらに今後の展開として、今回の特別研究プロジェクトで築いた中国との関係を元に、台湾・韓国・上海などの北東アジアの現地大学生を繋ぐ「場」として発展させるつもりです。

【おわりに】

ご指導いただいた加茂先生をはじめ、研究にご協力いただいた研究者の方々、現地学生の方々、そして助成金を頂いた湘南藤沢学会様に、このような機会の手助けをいただき大変感謝しております。ありがとうございました。